

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	マレーシア日系企業インターンシッププログラム及び リサーチプロジェクト（【UPM】マレーシアプトラ大学）	
学部・研究科名	グローバル教育推進センター	
プログラム 実施期間	2017年8月20日～9月16日	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア・セランゴール・マレーシアプトラ大学/現地日系企業	
参加者数：10名		知の森からの支援者：4名
プログラム概要	東南アジアでも、多様性(人種、宗教、文化など)を特に実感できるマレーシアで、現地大学と現地生産拠点にて研修をする二本立のプログラムである。東南アジアが将来大きな市場となることを実感し、そこで働く日本人駐在員、現地スタッフが「どのようにして競合他社に打ち勝って海外ビジネスを拡大しているか」、「どのようにコミュニケーションをとってビジネスを円滑にすすめているか」、「どのような生活をしているか」等、大学では学べない実際の仕事を見聞し、体験することで、学生が将来、海外で働くことに意欲的(海外志向)なエンジニアになることを目的としている。	

実施状況・成果

約4週間のマレーシア滞在中に、学生には様々な出来事があったようだが、渡航前ガイダンスでの危機管理、安全管理の学習の成果があった。マレーシアに到着して空港からホテルに向かうタクシーで携帯電話を紛失した学生は、速やかにホテル周辺の交番で、ポリスレポートを作成することができた。インターンシップ期間中に体調不良で病院に行く(3名)ことなどもあったが、学生と教職員は常に連絡がとれる体制を構築しており、周辺病院リスト(保険対応、日本語対応が可能)なども準備していたため学生は冷静な行動をとることができた。

学生にとって、日本でのインターンシップ経験もない中、毎日が緊張の連続であったようだ。日々、企業へ提出する英語での日報や担当教員へ提出する日報から、インターンシップの後半には、英語でコミュニケーションをとることに問題がなくなり、積極的に行動できたことが垣間見ることができた。

学生は、日系企業海外拠点において、日本人駐在員、現地スタッフから多くのことを学んだようだ。マレーシアにおいても、日本と同じレベルの製品を作ること、品質管理をすることを目標に日本人駐在員1人に対して、現地スタッフの部下が100人以上いるような現場で、日本人駐在員が発揮するリーダーシップを見ることができたのは、大きな刺激になったようだ。また、勤務時間外でも日本人駐在員や現地スタッフと時間を共にさせていただくことも多く、海外で働くことの大変さや充実感、その他たくさんの経験談を聞くことができたのは、学生にとって、これからの大きな財産となることだろう。また、どれくらいの語学力が海外の現場では必要とされているか、実感できたので、帰国後の語学学習に対するモチベーションが高まったようだ。

マレーシアプトラ大学では、各自テーマを設定して調査を行った。100人くらいに英語でインタビューする学生、数名であるがじっくりと時間をかけてインタビューする学生がいた。学生はみな、興味のある授業を自ら選び、マレーシアプトラ大学の先生へ直接、授業聴講の依頼をして、英語での授業体験をするなど、積極的に行動したことを評価したい。

これらの経験を通して、多くの学生が将来海外で働きたいという意欲を持てるようになったことは大きな成果といえるだろう。

学生の声①-工学部 学生

私は将来世界で活躍する自動車のエンジニアになることが目標です。現地に行ってメンターの人にエンジニアとは何か?と聞かれて私は「新しいものを作る人」と答えました。しかし、彼にとってのエンジニアは「問題を解決する人」でした。その工場では生産しか行われておらず、常に工場での問題を解決するように努めることが彼らの仕事だからです。エンジニアにはいろんな意味があり、そのエンジニアの力が集結してたくさんのアイデアとアレンジが組み込まれ、一台の乗り物ができる。そのことを強く実感しました。

学生の声②-工学部 学生

グローバル環境で働くためには、コミュニケーション能力が必要不可欠であると感じました。特に私の研修先では個々の能力もさることながらチーム力も試されていたと思います。そのチーム力を上げるためには、コミュニケーション能力は必須であり、そしてグローバル環境でのコミュニケーションには、英語でのコミュニケーションスキルが必ず必要であると感じました。最低限のコミュニケーションを取る為に今後は英語のスキルを向上していくことが、今の私に一番必要なことであると思います。

QAQC (HMMMY)



マレーシアプトラ大学の前で

